

ナボソのホームページに惣田先生と ディレクター四家さんの コメントが掲載されました！

● 乳がん患者さんと感覚障害について

惣田 麻衣 先生 回生病院 乳腺甲状腺外科

乳がんの治療では、手術や薬物療法により、感覚障害が残ることがあります。手術による感覚障害は、腋窩リンパ節郭清に伴うものが多く、わきの下や上腕内側に痛みや感覚の鈍さが生じることがあります。また、薬物療法では、ホルモン療法による手のこわばりや、タキサン系抗がん剤などによる末梢神経障害（手足のしびれや痛み）が多くみられます。投与回数の増加とともに症状は重度になり、長期間改善しないケースも少なくありません。タキサン系薬剤は使用頻度が高く、術前術後補助療法（再発予防の治療）、再発治療において中心的な薬剤です。治療効果が高い一方で、末梢神経障害の予防や治療は難しいのが現状です。手足の感覚障害により、細かい作業が困難になる、物を落としやすい、つかんでいる感覚がわかりにくい、よくつまずくなど、日常生活に支障をきたす方も多くいらっしゃいます。

● 感覚障害に対するがんリハとナボソの可能性

四家 卓也 先生 理学療法士

メディカルフィットネス Re-Birth 代表

専門分野：リハビリテーション（がん、運動器など）、コンディショニング

がんリハ中の感覚障害に対するアプローチ

周術期のリハビリでは、術後早期から肩関節の可動域拡大や肘の屈伸、手のグリップ運動などを行い、感覚障害の予防・改善に取り組みます。術後も長期的に感覚障害が続く方には、肩・肘のストレッチなどを継続的に実施し、症状の緩和を図ります。抗がん剤治療中の末梢神経障害には、有効な予防薬がないのが現状ですが、症状に応じた上肢のストレッチや運動などを通じて、末梢神経障害に伴う不活動による筋力や巧緻性の低下を防ぐリハビリを行います。

感覚障害に対するナボソの可能性

術後早期のリハビリにおいて、手のこわばりやむくみに対し、ナボソ独自のテクスチャーが機械受容器に働きかけ、従来のグリップ運動よりも高い効果が期待されます。また、上腕・前腕の感覚障害には、皮膚への直接的な刺激を通じて感覚にアプローチできる可能性があり、ストレッチだけでは得られない感覚の改善・予防が期待されます。抗がん剤治療中は刺激が不快に感じられる場合もありますが、症状に応じて使用を開始し、治療後の回復期にナボソを用いた運動を取り入れることで、末梢神経障害の改善に寄与する可能性があります。

詳細はナボソのホームページをご覧ください。

ピンク色のニューロボールは
ピンクリボンキャンペーンの限定商品です

Naboso(ナボソ) ボール
取扱い開始しました！

【**転がす** ・ **踏む** ・ **ほぐす**】

足裏の神経を刺激して感覚やバランス
を整えるマッサージボールです！

